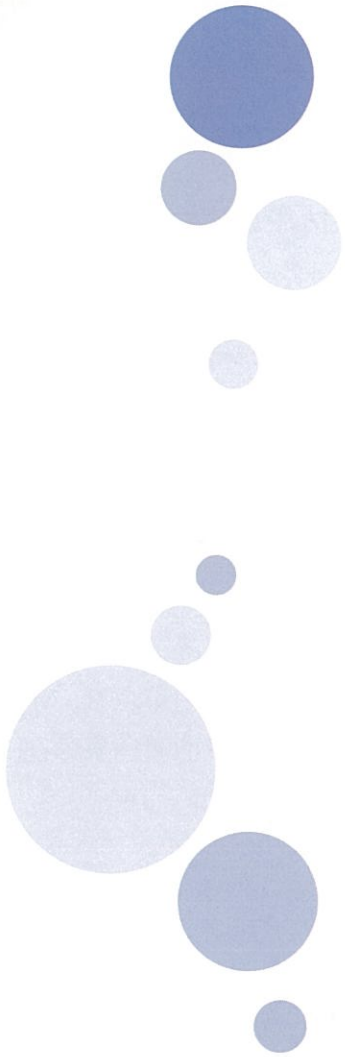




# 平成27年度 学校研究 成果報告書

## はじめに

本校は、文部科学省の「キャリア教育・就労支援等の充実事業」を受託して、『キャリア発達支援の視点による小中高12年間を見通した学習活動の充実改善』というテーマで教育実践研究に取り組んでいます。今年度は3年間の計画の2年次にあたります。

研究に取り組む目的は昨年度と同じ以下の2点です。

- 児童生徒のキャリア発達を促す教師の支援や授業の在り方を明らかにする。
- 学習内容やその関連性、系統性および学部間の連携、地域との連携等について検討する。

昨年度の成果と課題を基に、今年度は特に、キャリア発達の視点で、子どもたち一人一人の成長を丁寧に見取ることと、学習内容や地域連携の在り方の改善に取り組みました。



### キャリア発達



本校では、子どもたち一人一人のキャリア発達を、これまでの学校研究の成果や先行研究を基に次のように捉えています。

子どもたちが経験を通して、自分や自分の生活世界に対する知識や認識を、より現実 に即して新たにしてい くこと。そして、その営みを繰り返しながら自分らしい生き方を実現していくこと。

子どもたち一人一人が、自分らしい生き方を実現することを願って、「今」の活動や役割に主体的に取り組む、体験することを自分なりに意味づけ、価値づけ、関連づけることを目指しています。

# 子どもの成長を丁寧に見取る授業実践

私たちは、これまでの研究を通じて、子どもの成長を促すための教師の姿勢や支援の在り方として、以下のことを大切にしてきました。

- 子どもの願いや希望を受け止める。
- 教師は子どもと共感的、協働的に関わる。
- 子どもの言動の背景を、子どもに「問う」ことを通じて推察する。対話する。
- 学習活動に、子どもの強みを生かす。

授業を行う際には、子どもに学習の意味や意義を伝え、子ども自身が自分の目標や役割をしっかりと認識できるようにすることや活動の振り返りを丁寧に行っていました。

私たちは、子どもが、教師の期待する行動ができたかできなかったか、何かが上手になったかどうかなどの目に見える成長だけでなく、子どもが学習したことや変化した自分をどのように認識しているのかなど内面の成長にも焦点を当ててきました。

目に見える変容や内面の変容をキャリア発達として、今年度は、「子どものキャリア発達をどのように捉えていったらよいか」について、小学部低学年では「遊びの指導」、小学部高学年と中学部では「生活単元学習」、高等部では「作業学習」の授業を通して研究しました。それぞれの授業について報告します。

## 小学部

小学部では“自分への気づき”というキーワードで、「自分の好きなことや得意なことに気づき、主体的に楽しく活動する児童」を目指して取り組みました。

### 低学年「どろんこ遊びをしよう」

子ども達が、思いきりどろんこ遊びを楽しむ中で、素材（泥、水）や友達との関わりを経験すること、自分のしたい遊びや遊び方を自分で選んだり決めたりすること、難しいことに挑戦したり工夫したりすること、できた喜びを感じることを目指して活動しました。遊び出すことが難しい児童に対して、教師は遊びたい気持ちがあることを推察し、その子が好きな物事を取り入れるなどしながら遊びに誘ったり、一緒に遊んだりして、その遊びの楽しさを伝えました。自ら遊ぶことができるようになったその子は、活動を通して自分の思いを伝え、教師や友達との関わりを広げることができました。



### 高学年「うきうきデー～紙すきではがきを作ろう～」

恒例行事である校外学習「うきうきデー」の学習に、中学部の作業学習でも行っている紙すき体験を取り上げました。活動への見通しや期待感を高めるために、事前の学習を丁寧に行い、がんばりたい活動を選んだり、どこまでがんばるかを決めたりして、子ども自身が学習のめあてを持ちました。

活動後は、写真やビデオを観て振り返りを行い、自分の学習のめあてに対して、できたことや頑張ったことを発表しました。友達の発表を聴くことを通して、友達と関わることが少なかった児童が、他者の考えや行動に関心を持ち、友達の行動を見本にするようになりました。

## 中学部

中学部では、以前から仲間と協力して一つの活動を成し遂げることに取り組んできました。昨年度からは、そのことを通して、自分の意思を表し、主体性を発揮すること、社会生活や働くことに関心を持つことを目指してきました。

### 「店員さんになってポップコーンを販売しよう！」

今年度は、毎年取り組んでいるトウモロコシの栽培、ポップコーンの製造、学習発表会等での販売活動を通して、生徒のキャリア発達を促す授業について考えました。

教師は、生徒が活動に取り組み、成功体験を積み、自己効力感を高めることを繰り返しながら自信をつけるための支援を行いました。失敗を恐れて物事に積極的に取り組めない生徒が、販売活動でお客様に喜んでほしいという気持ちから、接客の練習を重ね、本番でやり遂げることができたという体験をし、その他の活動にも主体性を発揮するという姿が見られました。



## 高等部

平成26年度は、作業学習モデルプランの開発に取り組みました。クリーン工房では、金沢大学で技能補佐員として働く「障害のある社会人」と一緒に作業することを通して自ら学ぶ作業学習、プラタナスカフェでは新たに医学図書館ブックラウンジにカフェを開設して、学生や地域の人との関わりの中で実践的に学ぶ作業学習について研究しました。今年度は、そのモデルプランの充実に取り組みました。



### クリーン工房

#### 「窓そうじ～来校される方が気持ち良いと感じる学校にしよう～」

クリーン工房では、社会人とのミーティングを行い、社会人が給料をどのように使っているか、どのように生活を楽しんでいるかなどを知り、自分の卒業後の生活を考えました。また、社会人の仕事に対する考え方や心がけていることなどを知りました。

自分の卒業後の生活を具体的にイメージし、将来に目標や希望を持って作業に取り組んだり、怒ふきの作業をする中で、自分の得意なことや苦手なことについて考えたりしました。

生徒達は、社会人のような生活をしたいという目標を持って意欲的に作業に取り組み、

教員や地域の人達から感謝や慰労の言葉をかけられて、他者のために役立っていることや作業の達成感を感じました。

### プラタナスカフェ

#### 「プラタナスカフェでおもてなし～季節のイベントで～」

昨年の10月にオープンしたプラタナスカフェは、季節毎にイベントを企画しながら運営し、今年の10月には一周年を迎えました。

生徒達は、学校の外に飛び出し、医学系の職員や学生さんなどに飲み物、クッキーを提供することを通して、社会との相互作用の中でより実践的な作業に取り組んでいます。

今年度は、昨年度からカフェの作業を行っている生徒が、後輩に接客業務の大切な事柄や技術を伝えることを通じて、“共に育つ”ことに取り組みました。

生徒同士が学び合うカフェの運営は、生徒が意欲的に作業に取り組み、自らを向上させようという気持ちを育てるものでした。

その他、プラタナスカフェとクッキーの製造グループに、洋菓子製造・販売の企業から、作業学習アドバイザーを年10回招聘し、働く際の心構えや製造、接客技術の向上に務めました。



## 高等部進路指導の充実改善

昨年度に引き続き、就労移行支援事業所と連携し、高等部1・2年生の一般就労を希望する生徒を対象に、就労アセスメント実習を行いました。今年度は、事前のケース検討と面談を取り入れ、実習の目標の明確化やアセスメント項目を焦点化して取り組みました。

アセスメントにあたり、就労移行支援事業所で利用しているアセスメントシートを活用することで、生徒の得意・不得意がより明らかになり、今後の進路指導に活かす情報を得ることができました。

また、進路指導コーディネーターを配置し、進路指導主事をサポートするとともに、22件の新規職場開拓を行いました。その内、7件の企業で現場実習を実施し、1件の企業に就職が決まりました。高等部卒業生8名の進路先は、4名が一般就労、3名が福祉就労、1名が就労継続支援 A 型事業所に調整中です。(3月8日時点)

教師は、子どものキャリア発達を捉えるにあたり、子どもの内面を捉えようとしていました。しかし、それはあくまでも私たち教師の推察でしかありません。その推察が少しでも確かなものになるよう、推察する際の観点を決めて、子どもの言動や子どもとの対話から捉えようとしていました。そして、教師それぞれの推察を議論しました。このことは、教師一人一人が、子どもの理解を深めると共に、教師同士の子どもや授業に対する考え方の違いを知り、自らの実践を振り返るなど、学びあうことにつながりました。

# 学習活動や学校の在り方を改善する実践

キャリア教育は、「一人一人のキャリア発達や個人としての自立を促す視点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示すものである」と言われます。また、「各学校がこの視点に立って教育の在り方を幅広く見直すことによって、教職員に教育の理念と進むべき方向性が示されるとともに、教育課程が改善される」とキャリア教育の意義や効果が明らかにされています。

※今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（平成23年答申）

本校でも、このキャリア教育研究に取り組んできたことで、学習活動や学校の在り方が改善されつつあります。その方向性は、子ども達のキャリア発達を促すために、いわば“多忙化”している学習活動の精選や“今”の子ども達と社会に適した内容の見直し、12年間のつながりのある学習の系統性の見直し、学校だけで完結しない地域協働型の学習を取り入れることです。

## 12年間の学習活動の系統性や関連性を考える

小学部・中学部・高等部それぞれの学部を超えて、12年間の子どもの育ちを考えるために、教師がワークショップ形式で、3回の研修を行いました。

縦割りでグループを作り、小学部の学習内容については「自分に気付く」、中学部の学習内容については「自分と社会をつなぐ」、高等部の学習内容については「自分を社会に生かす」というキーワードで、それぞれの学部でこれまでに取り組まれてきた学習内容について考えました。

この研修は、教師がこれまでの取り組みを振り返ると同時に、他学部の学習の意味や内容を互いに知ることができ、12年間の学習の系統性や関連性について大まかな視点を得ることができました。



## 学部が連携した学習・他校や地域と連携した学習

昨年度に引き続き、地域の銀行から「カレンダーの袋詰め」作業を委託されて、中学部と高等部の生徒が合同で作業を行いました。今年度は希望者が履歴書を作成し、銀行の支店長さんの面接を受けて、採用された生徒が(希望者全員採用)作業に取り組みました。また、門松づくりや洗車作業など、他の活動場面でも合同で取り組みました。先輩後輩の中で、良い緊張感を持って互いに学び合う姿が見られました。



教師も、中学部生徒と高等部生徒の違いや成長を改めて感じる事ができました。

その他、小学部から中学部へ、中学部から高等部の進学に向けた合同の学習や高等部クリーン工場の生徒が地域にプランターを設置したり附属幼稚園の窓そうじを行ったりしました。

## ゲストティーチャーとの学習

昨年度に引き続き、それぞれの学部にゲストティーチャーをお招きして学習活動に取り組みました。

専門的な知識や技術に触れることや、それぞれの道で活躍する大人との出会いに、子ども達は憧れや夢を抱くとともに、たくさんのことを学びました。

小学部は、レクリエーション協会から指導員の方に来ていただき、ニュースポーツを取り入れた楽しい遊びを存分に行いました。子ども達は、新しい動きに挑戦したり友達との関わりを楽しんだりしました。

中学部は、プロのダンサーに来ていただいて、毎日の体づくりに行うダンスを生徒と一緒に作りました。大学の先生にも協力をしていただき、校歌をアレンジした曲で踊るダンスが完成し、学習発表会で披露しました。

高等部と中学部では、昨年度同様、助産師さんに来ていただき、命や性のことについて教えていただきました。思春期の心と体の変化や男女の違いについて学びを深め、他者との距離感を意識する姿が見られるようになりました。



その他、小学部が工業高校の生徒に信号機を製作してもらうことを通じて交流したり、小学部・中学部が、美術工芸大学の学生と一緒に図工や美術に取り組んだり、高等部がミュージック・ケアを通じて幼稚園児と活動したりしました。

# キャリア教育研修

## 教員・保護者研修会

キャリア教育や子どものキャリア発達について理解を深めるために、3回の研修会を実施しました。

臨床心理士で、自閉症の息子さんを育てている角田みすゞ氏の研修会では、保護者の方を対象とした研修の時間も持ちました。

参加された保護者の方からは、今とこれからの子育てに、大変参考になったという感想を多数いただきました。

| 年 月          | テーマ                                                                       | 講 師                                    | 参加者 (数)                                      |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------------|
| 平成27年<br>7月  | キャリア発達支援における評価のあり方                                                        | 青森県教育庁学校教育課<br>特別支援教育推進室<br>指導主事 菊地一文氏 | 本校教員 (30)<br>他校教員 (18)                       |
| 平成27年<br>10月 | 子ども主体の生活を実現する領域・教科<br>を合わせた指導                                             | 岩手大学教育学部<br>教授 名古屋恒彦氏                  | 本校教員 (30)                                    |
| 平成27年<br>11月 | 社会参加に向けて<br>～育てておきたい子どもの力(保護者研修)<br>明日をつくるかかわりの力<br>～わかるように・できるように～(教員研修) | ベル相談室室長<br>臨床心理士 角田みすゞ氏                | 保護者(14)<br>卒業生保護者(13)<br>本校教員(27)<br>他校教員(1) |

## 他校視察・研究会参加

一年を通じて、延べ18名の教員が11箇所の他校や他機関が実施する研究会・研修会に参加したり先進的な取り組みをしている機関の視察を行ったりしました。

|           |                                                                                                                                                |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 〈研究会・研修会〉 | 岩手大学教育学部附属特別支援学校公開研究会、キャリア発達支援研究会京都大会<br>東京都立江東特別支援学校公開研究会、京都市立白河総合支援学校東山分校研究発表会<br>東京都立青峰学園公開研究会、東京都立南大沢学園公開研究会<br>富山大学人間発達科学部附属特別支援学校教育実践研究会 |
| 〈視察〉      | 高知大学教育学部附属特別支援学校、西軽海保育所、(社福)光道園光が丘ハウス<br>象の鼻テラス、日本科学未来館、筑波こどものこころクリニック、(株)三越伊勢丹ソレイユ                                                            |

# 教育研究会

## 石川県立明和特別支援学校との合同教育シンポジウム

平成28年2月9日(火)、金沢市アートホールにて、石川県立明和特別支援学校と本校が、「これからの特別支援教育がめざすもの」というテーマで合同シンポジウムを開催しました。コーディネーターに植草学園大学教授の尾崎祐三先生、シンポジストに岩手大学教授の名古屋恒彦先生、びわこ学院大学教授の藤井茂樹先生、京都市教育委員会専門主事の森脇勤先生をお招きしました。県内外より100名を超える方に参加していただき、これからの特別支援教育の展望について考えました。

## 本校教育研究会

2月10日には、京都市教育委員会指導部総合育成支援課専門主事の森脇勤先生と北海道立特別支援教育センター所長の木村宣孝先生を助言者にお招きして、教育研究会を開催しました。県内から50名、県外から52名の方が参加しました。午前は、全体会と授業参観、午後はポスター発表とシンポジウムを行いました。シンポジウムでは、木村宣孝先生による、キャリア教育についてのご講演と、助言者2名、本校研究主任・副校長の4名による座談会を行いました。座談会を通じて、本校の

取り組みやキャリア教育についての理解を深めることができました。授業参観とポスター発表には保護者の方も参加し、学校研究について理解していただきました。



## おわりに

平成25年度より、文部科学省の事業を受託し、キャリア教育・キャリア発達支援の視点で学習活動や教育課程を中心とした学校の在り方の充実改善に取り組んできました。

学校研究を通じて、これまで私たちが大切にしてきたことや今後も大切にしていけるべきことを再認識すると共に、改善すべき課題も明らかになりました。少しずつですが着実に、学習活動や学校の在り方が変わりつつあると考えています。

また、この研究を通じて、私たち教師自身も、それぞれの教育観やこれまでの取り組みを振り返り、変化・成長しつつあることも感じています。子ども達のキャリア発達が促されると同時に、教師のキャリア発達も促されています。

ところで、昨年度の報告書でもお願いをしましたが、子ども達が物事に挑戦して新たな体験をし、子ども自身がその体験を振り返り、意味や価値を見出すためには、子どもの内面に共感して寄り添い、一緒に意味づけや価値づけをする大人の存在が必要です。どうぞ、お子様の活動を一緒に振り返り、成長したことやこれからの希望、願いを話し合っていたいただければ幸いです。

大学の附属学校である本校は、教育実践研究を行い、その成果を広く発信していくことが求められています。保護者の皆様には、この学校研究成果報告書をご一読いただき、本校の教育実践や研究活動に一層のご理解を賜り、ご協力をお願い申し上げます。

### 平成27年度学校研究成果報告書

発行 平成28年3月22日  
発行者 金沢大学人間社会域学校教育学類附属特別支援学校  
校長 綿引 伴子  
〒920-0933 石川県金沢市東兼六町2番10号  
TEL (076) 263-5551 FAX (076) 264-2275  
<http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/futoku/>  
印刷所 ソノダ印刷株式会社